

私の生涯しよがいのは

明治二十九年二月五日、冷つめたい冬の雨が降ふっていました。賤しずこ子の住すんでいた明治女学校の中の住宅は、近くの火事がひろがって焼けてしまいました。女学校の校舎も、寄き宿舎も、教員住宅もすべてが灰はいになってしまいました。

幼おきない三人の子供たちを逃がして、病気の賤しずこ子はよろけるようにして、家を離れました。雨が熱のある顔にふりかかり、

